2021年日本動物学会九州支部委員会議事録

2021年日本動物学会九州支部委員会は日本動物学会九州支部大会(福岡)がオンラインで開催されるため、通信形式でおこなった。審議事項について、支部委員全員の回答が確認されたので、本委員会は成立した。

日時:2021年5月18日(火) ~ 2021年5月25日(火) 回答者(敬称略、順不同):

山脇兆史(福岡県支部委員)、藍浩之(福岡県支部委員)、松尾亮太(会計・福岡県支部委員)、齋藤大介(福岡県支部委員)、高宗和史(熊本県支部委員)、嬉正勝(佐賀県支部委員)、征矢野清(長崎県支部委員)、八木光晴(長崎県支部委員)、北西滋(大分県支部委員)、内田勝久(宮崎県支部委員)、塔筋弘章(鹿児島県支部委員)、広瀬裕一(理事・沖縄県支部委員)、徳田岳(沖縄県支部委員)、守田昌哉(沖縄県支部委員)、竹村明洋(沖縄県支部委員)、渡邉英博(庶務)、池永隆徳(広報)

報告事項

2021年5月18日(火)に送付した「2021年九州支部委員会資料」において、以下の報告がなされた。

1. 理事会報告

岡田支部長より、以下の4点について報告がなされた。

・2021 年日本動物学会米子大会のオンライン開催について

2021年日本動物学会米子大会については、新型コロナ感染症の収束が見えず、現地開催を取りやめ、オンラインで開催することとなった。なお、来年以降の年次大会については、2022年大会が東京(早稲田大学・日程未定)、2023年大会が山形(山形大学・日程未定)で予定されている。さらに、2024年大会は九州支部が担当予定であり、現在のところ長崎での開催を検討している。

・支部代表委員について

2020年の選挙において、九州支部を含む多くの支部で支部代表委員の割当てがなくなってしまい、全体として支部代表委員が激減している。賞等選考委員会委員の選出母体である支部代表委員の数が減ることは学会にとって由々しき事態であるため、今後どうすべきか、具体的な方策について理事会で検討することとなった。

・フォトコンテストの開催について

学会主催の新たな公益プロフェクトとして、一般市民から寄せられた動物写真や動画を対象としたフォトコンテストが現在企画されている。

・動物学会誌(Zoological Science、Zoological Letters)について 近年、Zoological Science および Zoological Letters の投稿数が減少しており、また、 投稿分野の偏りが生じている。Zoological Science では、マクロ分野(生態・行動、分 類・系統・進化)の投稿が半数以上を占める一方、ミクロ分野(発生、生理、内分泌)の 投稿が以前より大幅に減少した。以上を踏まえ、支部の皆様には、良質の論文を数多く 両誌へご投稿いただくよう謹んでお願いする。

2. 庶務報告等

渡邉庶務幹事より、2020 年 7 月~2021 年 6 月までの事業報告、会員数と正会員動向に関する報告がなされた。つづいて、2021 年 7 月~2022 年 6 月の事業計画案の説明があった。2021 年の動物学談話会については、今後新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、日程および開催地を検討していく予定である。

3. 決算と予算案について

松尾会計幹事より、2020 年 7 月~2021 年 6 月の決算について報告があった。つづいて、2021 年 7 月~2022 年 6 月の予算案について説明があった。

4. 2022年三学会合同大会(佐賀)について

渡邉庶務幹事より、2022 年三学会合同大会は佐賀大学にて6月11日・12日の日程で開催予定であり、大会委員長は、鈴木章弘氏(九州沖縄植物学会会員)である旨が報告された。

5. 2023年三学会合同大会の開催予定地について

渡邉庶務幹事より、2023 年三学会合同大会は熊本県で開催予定であり、熊本県からの了 承が得られていることが報告された。

6. その他

岡田支部長より、2021 年九州支部総会は通信形式で実施されるため、2019 年総会で承認された申し合わせ事項「総会の委任状未提者は、総会議決を議長に委任したとみなす」に準じ、「回答票未提出者はすべての審議事項について承認したとみなす」旨を総会のメール案内文に付記する旨の報告があった。

審議事項

以下の審議事項において、Google Form を用いて、審議をおこなった。

- 2021年度事業計画案について
 2021年度事業計画案が全会一致で承認された。
- 2) 2021年度予算案について2021年度予算案が全会一致で承認された。

質問:動物学談話会補助金が計上してあるが、具体的な計画があるのか? (高宗委員)

回答:現在のところ具体案は決まっていないが、コロナ感染症の状況を見極めながら実施を検討したい。動物学談話会のねらいは、合宿形式の集会を通じて、参加者(特に学生)同士の交流を深めるところにあるため、コロナ感染症のリスクが僅かでも懸念される場合は、中止せざると得ないだろう。ただし学会年度が2022年6月末まであることから、現時点で中止とするのも時期尚早と考え、開催を提案させていただいた。(岡田支部長)

(文責:庶務・渡邉 2021年5月27日)